

よっ!!

ONE FOR ALL! ALL FOR ONE!

— 2006 —

第 5 号

6 月 15 日

梅雨の中休み

ムシムシする日が
多くなりますが
寝不足にならないように・・・



統括管理部

新 J I S マーク制度における認証 グループ 3 工場が、初回工場審査を受審

- 技術グループ **HIRAC** の 3 工場は、J I S マーク表示制度の改正による初回工場審査を予定通り受審しました。

千代田 : 5 月 31 日
堺臨海 : 6 月 1 日 ~ 2 日
兵庫大阪 : 6 月 13 日 ~ 14 日

- 登録認証機関,
財団法人日本建築総合試験所
製品認証センター
(平成17年10月3日登録認証機関登録)

- 認証の手順からすると、③まで進んでおり、9月末頃には認証契約が完了することとなります。

認証審査手順

- ① 申請予約
- ② 申請書の提出
- ③ 初回適合性審査
 - ・ 製品試験
 - ・ 工場審査
 - ・ 文書審査
- ④ 認証契約
- ⑤ 認証書交付
- ⑥ 認証維持審査



製品試験

- 各登録認証機関は、認証手順書を作成し、国の承認を経て公表します。なお、我々の関係する登録認証機関の認証手順書は、**JIS Q 1001:2005**〔適合性の評価－日本工業規格への適合性の認証－一般認証指針〕と、**JIS Q 1011:2005**〔適合性の評価－日本工業規格への適合性の認証－分野別認証指針（レディーミクストコンクリート）〕が基本になっています。

- また、認定の審査基準は省令によって次のように明確にされています。

- I. 社内標準化と品質管理の推進が経営者ほか全従業員によって組織的に実施されていること。
- II. 責任者として資格要件を満たす工業標準化品質管理責任者が選任されていること。
- III. 該当 J I S 等に基づき社内標準を体系的に整備し、これに基づき品質管理活動を実施していること。

- 今回の移行審査の準備及び対応は、従来の試験担当者を中心とする慣習を改め、マネジメントレビューに基づいて若い技術力の育成ならびに組織的な品質活動の充実が目標とされていました。担当した、新 J I S 対応グループは各工場の次長と 30 歳代の係員を中心として構成されています。新材料、新技術の開発を目指して歩みを止めることなく活動をしてもらうことを、強く期待しています。

新 JIS 対応グループ 工場 リーダー

『新 J I S 移行のリーダーとしての大役を務めさせてもらっていますが、各社の担当者の方々に協力していただき、工場審査を無事終了することができました。さまざまな問題がありますが、3工場協力して頑張っていきたいと思っております。』



認証製品試験員による測定作業



軽量コンクリートの空気量測定



高強度コンクリートの J I S 取得にむけて

新 J I S マーク

高強度域のコンクリートについて、量産的試作を行って出荷実績をつくること決定しました。

期間： 2006年6月21日 ~ 2007年2月20日

ISO9001:2000

7月8日連絡会



新 J I S 対応グループからの、報告があります。
中川哲朗氏 (SOC) も参加されます。
各工場の担当者は必ず予定しておいてください。

骨材を混合して使用する場合の注意点

工場では、一般的に骨材を混合してコンクリートを製造しています。これに関連する規格は、JIS A 5308付属書1とJIS A 5005です。



● JIS A 5308 : 2003 付属書1(規定)レディーミクストコンクリート用骨材

4. 砕石及び砕砂

a) 砕石

2) 砕石4020, 砕石2515, 砕石2015又は砕石1505は、混合して使用するものとし、混合してできる砕石は、砕石4005, 砕石2505, 又は砕石2005の粒度の規定を満足するものでなければならない。

8. 骨材を混合して使用する場合

8.1 同一種類の骨材を混合して使用する場合

混合後の骨材の品質が4. (砕石及び砕砂), 5. (スラグ骨材), 6. (人工軽量骨材)又は7. (砂利及び砂)の規定に適合しなければならない。ただし、混合前の各骨材の絶対密度, 吸水率, 安定性及びすりへり減量については、それぞれ4., 5., 6., 又は7. の規定に適合しなければならない。

8.2 異種類の骨材を混合して使用する場合

混合前の各骨材の品種が、塩化物含有量及び粒度を除いて、それぞれ4. (砕石及び砕砂), 5. (スラグ骨材), 6. (人工軽量骨材)又は7. (砂利及び砂)の規定に適合しなければならない。

〔以下略〕

● JIS A 5005 : 1993 コンクリート用砕石及び砕砂

3. 品質

3.4 粒度

3.4.1 粒度

砕石・砕砂の粒度は、5. 7(粒度試験)によって試験を行い、表4(粒度)に示す範囲のものでなければならない。

注意点

受け入れた単粒度の砕石を、そのままコンクリートを製造せず、(同一種類の骨材を)混合して使用している場合には、混合後の砕石(2005及び4005)の粒度がJIS A 5005に規定する粒度に適合していることを確認しなければならない。

ただし、単粒度の砕石の一部または全てがJIS A 5005に示す範囲の粒度でない場合に、混合後の粒度がそれらの粒度に適合していてもJIS A 5005に示す呼称(たとえば砕石2015・砕石1505)を自社規定の粒度範囲を採用した砕石に使用することは、『同義扱いできずふさわしくない』との指摘を受ける場合もあると考えられる。

JIS最新発行 2006年5月



規格詳細情報(JIS)

規格番号 JIS A 0203:2006
標題 コンクリート用語
英訳標題 Concrete terminology
状態 有効
規格概要 コンクリートに関して用いられる用語及び定義について規定。
制定年月日 1980-11-15
改正年月日 2006-04-25
確認年月日 1986-09-15
公示の種類 改正
出版年月日 2006-05-01
履歴 1980-11-15 制定
1986-09-15 確認
1989-03-15 改正
1999-02-25 改正
2006-04-25 改正
引用JIS規格
引用国際規格
ハンドブック
原案作成団体 社団法人 日本コンクリート工学協会
対応国際規格
ICS 01.040.91
91.100.30
備考

規格詳細情報(JIS)

規格番号 JIS Q 9000:2006
標題 品質マネジメントシステム—基本及び用語
英訳標題 Quality management systems -- Fundamentals and vocabulary
状態 有効
規格概要 JIS Q 9000ファミリーの主題である品質マネジメントシステムの基本を説明し、関連する用語を定義。
制定年月日 2000-12-20
改正年月日 2006-05-20
確認年月日 ---
公示の種類 改正
出版年月日 2006-05-20
履歴 2000-12-20 制定
2006-05-20 改正
引用JIS規格 Q19011, Z8115:2000
引用国際規格 IEC 60060-191/A2:2002, ISO 10012, ISO 10019, ISO 10241, ISO 1087-1, ISO 3634-2, ISO 704, ISO 9001:2000, ISO 9004:2000, ISO/IEC 17000, ISO/IEC Guide 2, ISO/TR 10013, ISO/TR 10017, ISO/TR 13425
ハンドブック
原案作成団体 社団法人 日本規格協会
対応国際規格 ISO 9000:2005 (MDT) 同等性に関する説明
ICS 01.040.03
03.120.10
備考

口語訳ISO9001:2000

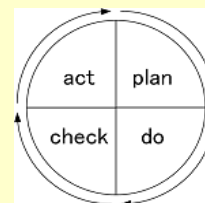
第5回



序文

0. 2 プロセスアプローチ (つづき)

参考 PDCAの考え方



今までの品質管理の中で強調されてきたPDCAの考え方(仕事の整理の仕方)は、ISO9001に取り組み上でも有効です。
PDCAとは、次のような内容です。

P (Plan) : 仕事の目標と、実施する方法【プロセス】を決める

(これは、お客さんとの約束と、組織が目指す方針に基づく)

D (Do) : 決めた仕事【プロセス】を実行する

C (Check) : 仕事のやり方【プロセス】と、製品の品質を評価する

(組織の方針、仕事の目標、製品に関する約束が、判断の基準となる)

A (Act) : 仕事【プロセス】の結果を良くしてゆくための処置を行う

